

海底探査チーム「Team KUROSHIO」整備拠点の視察・激励

2018年12月7日、清水大使は、日本からギリシャに来訪中の中谷武志共同代表（海洋研究開発機構（JAMSTEC）技術研究員）等率いる日本の海底探査チーム「Team KUROSHIO」（※）のメンバー等約30名を訪問し、海底探査ロボット等の整備拠点を視察するとともに、メンバーを激励しました。同チームは、海底探査技術の国際競技「Shell Ocean Discovery XPRIZE」の「Round 2 実海域競技」（決勝）に挑むため、12月9～19日、カラマタ沖にて、深海4,000mに無人の海底探査ロボット等を用いて、超広域高速海底マッピングを行います。

海底探査ロボットの整備拠点は、同チームの構成機関であり主要スポンサーでもある「ヤマハ発動機」社のギリシャでの正規代理店「モト・ダイナミクス」社の倉庫の一部を借り上げており、視察・激励には日本からヤマハ発動機（株）の柳弘之代表取締役会長等も来訪しました。

決勝競技には欧米各国のチームも参加しており、最終結果は来年3月にXPRIZE財団から発表される予定とのことです。



※「Team KUROSHIO」（<https://team-kuroshio.jp/en/>）は、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立大学法人東京大学生産技術研究所、国立大学法人九州工業大学、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所、三井E&S造船株式会社、日本海洋事業株式会社、株式会社KDDI総合研究所及びヤマハ発動機株式会社の産官学8機関の技術者で構成され、海中ロボット等を用いて、超広域高速海底マッピングの実現を目標とする海底探査技術の国際競技「Shell Ocean Discovery XPRIZE」（<https://oceandiscovery.xprize.org/prizes/ocean-discovery>）に参加しています。

アテネにおける天皇誕生日祝賀レセプション

2018年11月28日（水）、清水大使夫妻はアテネ市内で天皇誕生日祝賀レセプションを開催しました。レセプションには、政府関係者、各国外交使節団長、日系団体関係者、文化関係者、ビジネス関係者など約400名の方が出席されました。

オープニング式典冒頭では、日本及びギリシャの国歌演奏後、清水大使がギリシャ語と英語で挨拶の辞を述べました。続いて、清水大使、カトゥルガロス・ギリシャ外務副大臣、ハジダキス・ギリシャ日本議会友好

議連会長、バラウラス同副会長、ヴラツァノス・ギリシャ日本協会会長による鏡開きが行われ、明年の日本・ギリシャ修好 120 周年に向けて両国友好関係の更なる発展を祈念しました。式典後半には、「ペリスTERI 剣友会」による剣道のデモンストレーションが行われ、その迫真の演武に会場は熱気に包まれました。

会場では、2020 年東京オリンピックの広報映像や今年 1 年間の当館の活動紹介スライドショーが上映されました。また、寿司をはじめとする和食に加え、日本酒に親しむ機会も提供された他、小原流いけばなギリシャ支部及びギリシャ盆栽クラブによる作品展示も行われ、会場に華が添えられました。さらに、今年はギリシャに進出している日系企業等の協力を得て、日本の先進技術や当地における投資事業等を紹介するブースも出展されました。



経営者協会会員に対する大使講演

2018 年 10 月 25 日、清水大使は、ギリシャ経営者協会（ACEO: Association of Chief Executive Officers）の会員約 30 名及び日系企業関係者を公邸に迎え、「日本と我が国の外交政策」と題する講演を行いました。

冒頭、ラバト・ヴァシリス ACEO 会長より歓迎の挨拶が述べられ、清水大使を会員に紹介しました。大使による講演では、日本の歴史や政治制度、外交政策、日本とギリシャの関係等について説明を行い、講演後の質疑応答では活発な議論が交わされました。

講演後のミニ・レセプションでは、公邸料理人による寿司や日本酒に親しむ和やかな雰囲気のもと、企業関係者の間で交流が深められました。



ピレウス・マリン・クラブにおける大使講演



2018 年 10 月 11 日、ピレウス・マリン・クラブにおいて、清水大使は、「日本と我が国の外交政策」と題する講演を行いました。講演では冒頭、ピレウス・マリン・クラブのアイリーン・ダイファス会長が挨拶を述べ、清水大使を紹介しました。同講演には、パナヨティス・ツァコス氏（旭日小綬章者）や日本企業関係者をはじめ海運関係のクラブ会員約 100 名が参加し、活発な議論が行われました。



レフカダ市における小泉八雲記念イベント

2018年6月26日（火）及び27日（水）、レフカダ市において、小泉八雲生誕を記念した同市主催第4回「Lafcadio Hearn Days」が開催され、清水大使夫妻が出席しました。

26日夕方のオープニングでは冒頭、ドラゴンダイデイス・レフカダ市長及び清水大使より開会の辞が述べられました。その後2日間かけて、小泉八雲に関する講演会が開かれ、ヴァシス元駐日ギリシャ大使、パパレクサンドロプロス・アテネ大学教授他より、八雲の生涯や作品、その影響等について講義が行われました。

同イベント期間中は併せて、日本から来訪した舞踊グループ「舞鼓刀」塾メンバー総勢約30名による太刀や演舞の公演が行われた他、浴衣や書道のワークショップ、フリストドゥル講師による折り紙ワークショップが開かれるなど、レフカダ市民が日本文化に広く親しむ機会となりました。

更に清水大使夫妻は、今年10月に日本の和歌山県で開催される「世界津波の日・高校生サミット」に参加するレフカダ第二高校の6名の学生及び引率のアラヴァニス校長と懇談し、訪問に向けた準備や意義につき話しました。





「Sport for Tomorrow」世界難民の日・オリンピック・デー記念：

サッカーボール贈呈式及びスポーツ・フェスティバル

2018年6月22日、在ギリシャ日本大使館は、世界難民の日及びオリンピック・デーを記念して、ギリシャに逃れている難民及びギリシャの子ども約50人に対し、日本国内の各団体から提供を受けたサッカーボールを贈呈しました。今回のボール提供は、難民とギリシャの子ども達にスポーツの機会を提供することで、国境や言葉の壁を越えたチームワークやフェアプレー精神、平等や友情の心を育んでもらいたいとの思いから実施したもので、供与式典にはギリシャ来訪中の鈴木大地スポーツ庁長官をはじめ、ヨルゴス・ヴァシリアディス・ギリシャ文化・スポーツ省及びルシオ・メランドリ・ユニセフ・ギリシャ事務所関係者、清水大使夫妻も出席しました。

式典に出席したヴァシリアディス・ギリシャ文化・スポーツ政務官は、冒頭挨拶の中で次のように述べました。「スポーツには、貧富の差や人種に関係なく、世界中の人々を団結させるという利点があります。すべての人々に差別のない平等な機会が与えられています。スポーツの場は、平等かつ公正な社会の手本と言えます。東京オリンピック開催に向け、ギリシャは様々なレベルで日本が必要とする協力を行う用意があります。」

続いて、鈴木大地スポーツ庁長官より、次のとおり挨拶を述べました。「『Sport for Tomorrow』は、東京がオリンピック・パラリンピック競技大会の開催国に選出されてから始まった事業です。同事業を通じて、より多くの人々がスポーツを楽しめるよう世界200ヵ国・地域でスポーツ関連イベントが展開されています。来年2019年は日本とギリシャが外交関係を結んで120周年を迎え、2020年には東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。日本はオリンピックの精神を継ぎ、オリンピックムーブメントをレガシーとして次世代に繋ぎ、平和で豊かな世界の実現に貢献していきます。また、ギリシャとのスポーツを通じた交流がこれまで以上に活性化していくことを願います。」

さらに、ルシオ・メランドリ・ユニセフ・ギリシャ事務所長が挨拶をし、「スポーツにはたくさんのことを乗り越えられる力があります。ギリシャにおいて難民や移民の子ども達が地元の子もたちに溶け込む際、一番の大きな壁は言葉です。スポーツは、そのような言葉の壁を乗り越え、平等と友情の心を育む機会を提供します。」と述べました。

最後に、子どもを代表して女の子がギリシャ語で次のように述べました。「私は2年前にアフガニスタンから来ました。ギリシャに到着したときはギリシャ語を何も知りませんでしたが、勉強し、今では読むことも話

すことも書くこともできます。私は、大きくなったら強い女の人になりたいです。そして、アフガニスタンを戦いのない国にし、すべての子供が通える学校を作りたいです。」

式典はアテネ市内の国立体育館「フォキアノス・スポーツパーク」において、日本大使館、ギリシャ文化・スポーツ省、ユニセフ・ギリシャ事務所の共催で行われ、続くスポーツ・フェスティバルでは、子どもたち約 50 人が、サッカーや柔道などのスポーツ、折り紙などに興じました。式典に先立ち、鈴木スポーツ庁長官及び清水大使はヴァシリアディス・ギリシャ文化・スポーツ政務官と会談し、スポーツ分野における両国間協力につき協議しました。

2017 年、日本とギリシャは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、両国間友好関係の強化を目的にスポーツ分野における協力合意を結んでいます。2019 年、日本とギリシャは外交・友好関係 120 周年を祝し、翌 2020 年には東京オリンピックイヤーを迎えます。本事業は日本政府のスポーツを通じた国際貢献策「Sport for Tomorrow」の一環であり、スポーツ分野における国際協力と国際交流の促進を図ることを目的としています。



ポシドニア国際海事展 2018



2018年6月4～8日、メトロポリタン・エキスポ・センターで開催されたポシドニア国際海事展 2018 には、日本から 94 社が参加しました。そのうち、日本船舶輸出組合（JSEA）の 10 社、日本船用工業会（JSMEA）の 14 社、日本海事協会（Class NK）の合計 25 社が日本パビリオンを構成し、4 日の日本パビリオン開場式では清水大使もテープカットに参加しました。

5 日午後にポシドニア会場内で行われた日本セミナー「Maritime Innovations: New Development in Environmental Conservation and Technology (Japanese-Build Ships and Marine Machinery and Equipment Leading the World)」は 2 部構成で、清水大使は冒頭で歓迎挨拶をしました。

第 1 部「Current State of Innovations in Japanese Shipbuilders and Machine Machinery Manufactures」では、日本の造船所と船用メーカーによる省エネ・環境をテーマとした製品紹介が行われました。第 2 部「Environmental Conservation and Technology in Foreseeable Future」では、国土交通省、Class NK、Clarkson Research Service、ギリシャ船主協会によるプレゼンテーションがあった後、JSEA、JSMEA 参加企業も加わり、パネル・ディスカッションが行われました。

6 日夜に市内ホテルで行われた清水大使夫妻及び村山滋 JSEA 理事長夫妻共催によるレセプションで、清水大使は主催者を代表して挨拶を行いました。寿司や日本酒も提供された会場にはギリシャの船主を中心に 800 名以上が集まり、盛況をおさめました。



アテネ 2018 UNESCO 世界本の首都イベント：「小泉八雲講演 × 折り紙ワークショップ」

(2018 年 5 月 29 日、6 月 4 日・7 日実施)

在ギリシャ日本大使館は、ニアルホス財団文化センターとの共催で、アテネ市 UNESCO 「世界本の首都」文化事業の一環として、ギリシャ生まれの日本の国民的作家、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）を特集した折り紙ワークショップを同文化センターで2回、当館ホールで1回行いました。

冒頭、清水大使よりギリシャ語及び英語でオープニングの挨拶が述べられました。続いて、ヨアニス・フィカス教授より小泉八雲及び著作について紹介が行われた後、藤井苑子先生による折り紙ワークショップが行われました。

各回盛況で、ワークショップの参加者は子供から大人まで幅広く、藤井先生と一緒に作業をしたり、他の参加者と教え合ったりして、終始和やかな雰囲気の中で折り紙を楽しみました。



清水大使のクサンシ、コモティニ訪問



2018 年 15 日、清水大使はギリシャ北部のクサンシとコモティニを訪問しました。

クサンシでは、ザグナフェリス・マケドニア・スラキ地方クサンシ副知事、ディマルホプロス・クサンシ市長、モライティ・クサンシ商工会議所会長を訪れ、ビジネス、投資、観光、文化など様々な分野における協力の可能性について協議しました。クサンシ商工会議所では、清水大使はクサンシ商工会議所の名誉会長となりました。清水大使はその他、SEKE（ギリシャたばこ生産者協会）、Royal Tsatsoulis（食品工場）、Tehni S.A. – Pantelos Group（アルミドア製品）、To Kati Allo 及び Papaparaskevas（チョコレート工場）、Ktima Vourvoukeli（ワイナリー）も訪問しました。

コモティニでは、ペトリディス・コモティニ市長、ツァリキディス・マケドニア・スラキ地方ロドピ副知事、アゲリディス・ロドピ商工会議所会長を訪れ、投資と貿易の分野における提携の可能性について協議しました。清水大使はその他、Ekkokistiria Thrakis（綿工場）も訪問しました。



クサンシ商工会議所



SEKE ギリシャたばこ生産者協会



ロドピ商工会議所

第 38 回日本語スピーチコンテスト

2018 年 5 月 13 日、ギリシャ日本語教師会主催「第 38 回日本語スピーチコンテスト」（後援：国際交流基金，ギリシャ日本協会，アテネ日本人会，協力：在ギリシャ日本国大使館）が、アテネ市内のティタニアホテルで開催されました。

今年も、日本語能力検定の N4 及び N5 レベルの学習者を対象に、日本の詩 3 作品のいずれかを選んで朗読す

るのが課題です。今年の課題詩は、三好達治作『昨日はどこにもありません』、相田みつを『つまずいたおかげで』、西條八十作『帽子』の3つで、14人の参加者が日頃の日本語学習の成果を競い合いました。厳正なる審査の結果、第1位にカンジャス・コンスタンディノスさん、2位にカネロプル・カテリーナさん、3位にサマラ・マリアさんが入賞し、3名は会場から大きな拍手喝采を浴びました。



ギリシャ国費留学生同窓会年次総会



2018年3月16日（金）、日本大使館・多目的ホールにおいて「ギリシャ国費留学生同窓会年次総会」が開催されました。

冒頭、ギリシャ国費留学生同窓会のクリオ・カツォリディス副会長が開会の辞を述べた後、清水大使より挨拶が述べられました。続いて、今年日本へ留学する4名の新規国費留学生が紹介された後、クリオ・カツォリディス副会長による日本留学体験に関する講演が行われました。後半は、今後の同窓会組織の活動方針について熱く議論が交わされた後、レセプションが開かれ新旧国費留学生が楽しく語り合う和やかな夕べとなりました。



日本映画祭 2018 "Power of Music!"

2018年2月15日～18日、ミハリス・カコヤニス財団のシネマ・ホールにおいて、在ギリシャ日本大使館、国際交流基金及び同財団共催、日本たばこ産業インターナショナル・ヘラス社（JTI Hellas）協賛により「日本映画祭 2018」が開催されました。今年の映画祭は、「Power of Music! - 音楽のチカラ-」と題して、音楽をテーマにした現代日本映画4作品が上映されました。

初日のオープニング冒頭、清水康弘大使及びカコヤニス財団のアレクサンドラ・ヨルゴプル氏より歓迎の挨拶が述べられた後、三木孝浩監督の『くちびるに歌を』が上映されました。同映画は、長崎県・五島列島を舞台に、主題歌であるアンジェラ・アキの「手紙 ～ 拝啓 十五の君へ～」の合唱を通じて、元ピアニストの音楽教師と合唱部の中学生が心を通わせていく様子が美しく描かれた作品です。

上映終了後、会場ホールにおいてレセプションが開催され、ギリシャ料理とともに、大使公邸料理人による寿司や日本酒が観客に紹介されました。レセプションでは、協賛者である日本たばこ産業インターナショナル・ヘラス社のペギー・ドリザ渉外部長より、同社が日本とギリシャの間の架け橋として、文化交流を通じた社会貢献を図る意義につき言及されました。続いて、当地で長年活躍されている邦人ピアニスト・本橋愛氏より映画の主題歌である「手紙 ～ 拝啓 十五の君へ～」が演奏されると、観客は美しいピアノの音色に聞き入っていました。また観客からは、日本の映画作品を通じて、我々が日常生活の中で見失いがちな映画に込められた様々なメッセージや、音楽のもつ影響力に気付かされた等の感想が聞かれました。

4日間にわたる映画祭は、その他3作品「マエストロ!」「楽隊のうさぎ」、「アブラクサスの祭」が毎日2本ずつ上映され、多くの来場者が足を運び、成功裡に終了しました。





琉球舞踊「伊是名の会」アテネ公演



2018年2月12日及び13日、メガロン・アテネ・コンサートホールにおいて、在ギリシャ日本大使館及び同ホール共催、日本たばこ産業インターナショナル・ヘラス（JT International Hellas）社協賛により、琉球舞踊団「伊是名（いぜな）の会」の公演が開催されました。「伊是名の会」は、東京を拠点に沖縄・奄美の島々の舞踊を国内外で披露され活躍されており、今回ギリシャでは初めての公演となりました。

公演初日の12日午後8時、スカルコタス・ホールには、多くの観客が詰め掛けました。開演冒頭、メガロン・アテネ・コンサートホールのニコラオス・セオハラキス会長より「伊是名の会」の訪希を歓迎する辞が述べられた後、清水康弘大使よりギリシャ語で「伊是名の会」を紹介するとともに共催及び協賛団体への謝辞が述べられました。また、主賓であるリディア・コニオルドゥ文化・スポーツ大臣からは、日本の舞台演劇への賛辞と両国の舞台芸能を通じた文化交流の大切さについて述べられました。

奄美の美しい海の映像が舞台スクリーンに映し出された後、華やかな彩りの伝統衣装を纏った25人のメンバーが琉球の華麗な舞いを次々と繰り広げました。途中、伊是名の会の代表者、原口氏よりギリシャ語で挨拶が行われると会場から大きな拍手が送られました。また、メンバーと観客が歌や踊りを一体となって楽しむ場面もあり、会場は大いに盛り上がりました。パワフルかつ優美なパフォーマンスは観客を魅了し、琉球文化を身近に感じられたひと時でした。

公演後、会場ホールで行われたレセプションでは、今回の公演を協賛した日本たばこ産業インターナショナル・ヘラス社のエドアルド・ボレッティ社長より挨拶が述べられ、同社がギリシャ経済界のみならず文化事業にも貢献する意義につき言及されました。続いて、奄美観光大使も務める「伊是名の会」より奄美特産の黒糖焼酎と沖縄の泡盛が紹介され、招待客に振る舞われました。招待客は、大使公邸料理人による沖縄風料理や寿司に舌鼓を打ちつつ、舞踊団員と歓談するなど、終始和やかな雰囲気包まれた夕べとなりました。

2 日間にわたる公演は、両日とも満席となる盛況ぶりで成功裡に終了しました。

